

女流作家として私は何を求むるか

宮本百合子

青空文庫

なぜ女性の中から良い芸術家が生れないか、或いはそれが生れたにしてもなぜ完成の域にまで成長しないのか、その質疑に対して私は第一に女性教育の欠陥を挙げたいと思います。個性の上に温かいはぐくみを持たない今の教育は、総合的な人間常識を授けるにとどまって、その人の持つている質の善悪にまで敷衍されていないからです。その点から一面、人間中心芸術中心の天才教育があつてもよいと思います。

芸術家としての素質に就いて女性をどう観るかという事に就いては、私は女性にも十分に芸術家になり得る天分は賦与されていると思います。趣味の上から、その生活に湿いのある点から、或いはその環境が女性の上に及ぼす体験から、到底男性に持ち得ないと思われる何ものかを持っていると思います。それがなぜ力として芸術化されにくいのか、或いはその創作が多くの場合、彼女は女であるという目安の上に置かれて批判され、価値づけられてゐるか、この点に關しては、例えば「性」の問題を取扱うとして、つぎの如きもどかしさがその創作を裏切る。即ち「性の問題」を取扱う場合も、男はそれを彼の生活の一部として虚心に口にし、芸術化し得るのに対し、女性はそれをより以上に敏覚する素質を与えられていながら、彼女がその原始時代から伝統的に培われてきた道徳性は、この問題を

直ぐに善惡の批判の上に結び付けたがります。一面男性よりも性的の徹底性を持ちながら、芸術家になり切れない道徳性の為めに、フツ切れない女性の力のはがゆさが痛切に感ぜられます。

これは僅かにその一二の例に過ぎないが、これらの点からも女性はもつともつと力強く自己を開拓する必要があると思います。

私は過去の自分の創作やその態度に非常な飽き足りなさを感じたことから、今度の長篇に対してはこれまでとは全く異った氣持で向っています。私は過去の生活が割合に順調であつた為めに、それから享容うけいれた或る純真さはあつたかも知れないが、他面に於て前に述べた伝統から享容れた欠点のある事も否めない事實であるから、これからは一切の不純な氣持、身に附き添った色々なこだわりから離脱し、創作境そのものの中に自分を投げ捨ててかかった覺悟で仕事に掛かりたいと思います。

今月の『新小説』の和辻哲郎氏が「入宋求法の沙門道元」に就いて書いて居られるが、あの中の「即ち十丈の竿のさきにのぼって手足を放つて身心を放下する如き覺悟がなくては」という氣持、あの「人を救うための求道ではない、真理の為に真理を究める求道」

であるという心境、それを私は求めたいと思います。私の目下はあの地虫が春が来てひとりでに殻を破つて地上に抜け出る、あの漸進的な自然の外脱を得たいと思います。

至純な芸術境にあつて死身に仕事が出来れば結構ですが、要するに其も質の問題だと思っています。エルマンをお聴きでしたか。世の中に一人あつて二人とないあの芸術、物理学的な機械観念から離れた真実の心音、あの心境が創作の上に移し得られるならばと思います。名匠が仏体を刻む鑿の音、其処にあつて私は仕事が見たいと思います。私はあの里見淳氏の芸術からその気持が享容られます。

私は創作は議論ではない力だと思ひます。それはお互いに争つた兩人の画家が、最後に無言で兩人の作品を並べて其力を批判した力其物の表現だと思ひます。

〔一九二一年三月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十卷」新日本出版社

1980（昭和55）年12月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

初出：「読売新聞」

1921（大正10）年3月6日号

入力：柴田卓治

校正：米田進

2003年1月16日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

女流作家として私は何を求めるか

宮本百合子

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>